

事業概要 (1/5) 【防災環境“周遊”都市・仙台モデル推進事業】

| | | | |
|------|--|-----|------------|
| 実施地域 | 宮城県仙台市 | 事業費 | |
| 実施主体 | 宮城県仙台市 | 人口 | 1,068,094人 |
| 事業概要 | 防災・減災の備えや情報発信を日常生活に織り込みながら、日常と災害時等の非日常を「フェーズフリー」につなぎ、安全・安心と賑わいが両立する「防災環境“周遊”都市・仙台モデル」を実現するため、市民や来街者が必要な情報やサービスにアクセスできる共通インターフェースを整備する。さらに、人々の“行きたい”を創出するため「デジタルマップ」「情報のプッシュ通知」を、また、“行ける”・“行かなくてよい”を実現するため「デマンド交通」「オンライン診療」「シェアサイクル」を実装する。これらの取組を通じて取得したデータは、産学官民が連携・活用できる体制を構築した上で、個人が享受するサービスの向上と付加価値創出につなげる。 | | |

取組内容

日常と非日常を「フェーズフリー」につなぎ、安全・安心と賑わいが両立する「防災環境“周遊”都市・仙台モデル」を実現

防災環境都市・仙台

東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、「防災環境都市・仙台」として、指定避難所への防災対応型太陽光発電システムの導入による災害時のエネルギーの確保や、防災・減災の視点を取り入れた新たな製品・サービスの創出など、安全・安心なまちづくりを進めている。

周遊都市・仙台

まちの回遊性向上を目的にMaaSの推進に取り組むほか、郊外地域では地域交通の導入支援を実施。市内では日々、大小様々な規模のイベントが開催されており、代表的な観光地以外にも魅力的なスポットが多く存在している。

① 「フェーズフリー」の実現

市民や来街者が日常的に利用する共通インターフェースで、災害時等にも活用できるよう、「フェーズフリー」の考え方に基づいた情報提供を実施。

② “行きたい”を創出するための情報へのアクセス性向上

移動手段に関する情報、リアルタイムなイベント・セミナー情報など、市民や来街者のおでかけ意欲を創出する情報を一元的に分かりやすく提供。

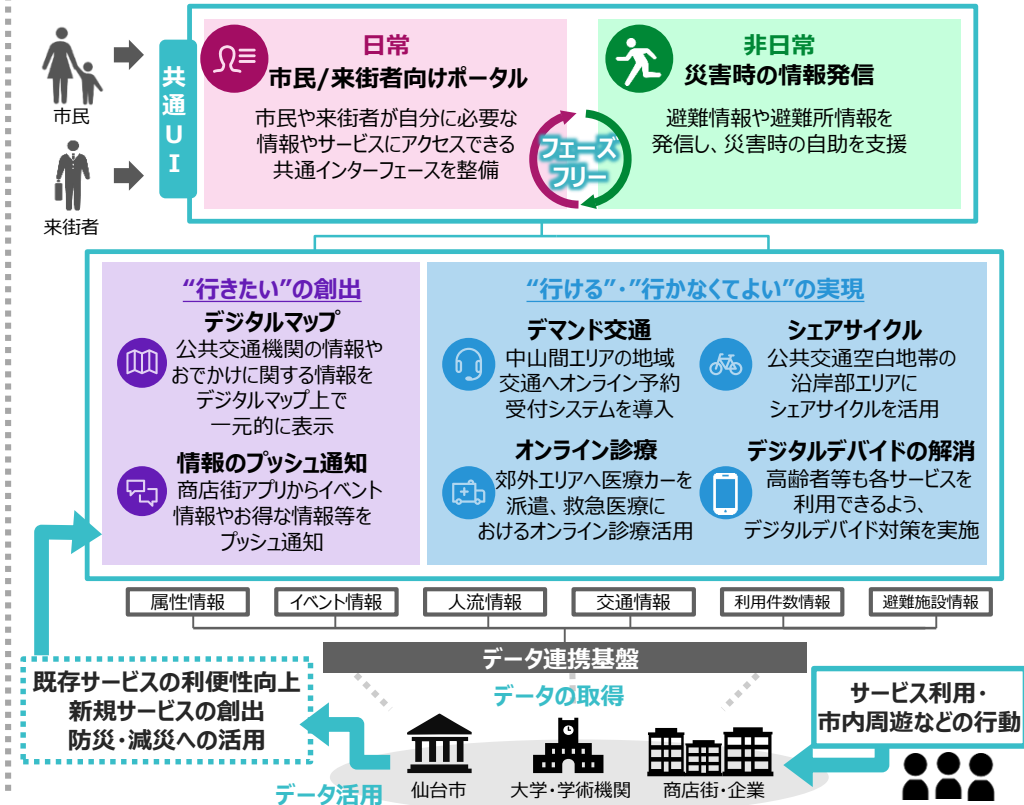
③ “行ける”・“行かなくてよい”を実現するためのサービス提供

自家用車に頼らなくても行きたい所への移動が可能となり、移動をせずとも必要なサービスが受けられる社会を実現するためのサービス提供と、高齢者にも各サービスを利用してもらうためのデジタルデバйд対策を実施。

④ データ連携による更なる付加価値創出

既存サービスの利便性向上や防災・減災への活用など、分野間の連携により個人が享受するサービスの利便性向上・付加価値創出を目指す。

防災・減災の備えや情報発信を日常生活に織り込みながら、市民・来街者が**安全・安心に暮らし・賑わいを楽しめるまち**を実現



背景

取組の方向性

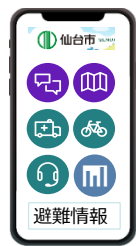
事業概要 (2/5) 【防災環境“周遊”都市・仙台モデル推進事業】 ※公表資料として作成すること。

安全・安心と賑わいが両立する「防災環境“周遊”都市・仙台モデル」の活用シーン

市民 (例: 高齢者)



スマートフォン教室や高齢者向けeスポーツの参加をきっかけにデジタルを体感し、慣れ親しみながらデジタルデバイドを解消



市民 (例: 高齢者) がポータルから必要なサービス情報やおでかけ情報を得る



医療カーでは本人認証にマイナンバーカードを活用

免許は返納したけど病院にはいけないと

車はないけどおでかけがしたい

遠くの病院にでかけることなく、オンライン診療医療カーで、かかりつけ医から診察を受ける

オンライン予約でデマンド交通を利用し、日々の買い物や秋保温泉へおでかけ

商店街アプリからお得情報をキャッチし、徐々に市内中心部へ。バスの乗換情報もデジタルマップで楽々確認



指定避難所



災害発生



万が一、災害があった際にも、デジタルマップやポータルを通じて避難先に関する情報にアクセスできるため、安心して周遊を楽しめる

災害時帰宅支援ステーション



避難階段

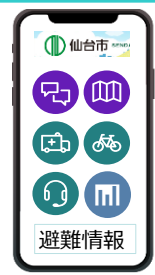


津波避難タワー

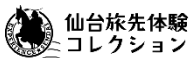


災害発生

来街者



出張客や観光客などの来街者がポータルから移動手段情報や観光情報、リアルタイムなイベント情報を得る



地域のメディアとも連携し充実したコンテンツ



デジタルマップを利用してイベント情報や移動手段に関する情報をキャッチ



仙台MaaS

出張で仙台にきたけどもっと楽しみたい

仙台MaaSを使って観光ループバスの1日乗車券をスマホで購入。仙台城址、青葉山公園周辺などの観光スポットへ

車はなくとも、シェアサイクルで沿岸部エリアの震災遺構、フルーツ狩りやマルシェ、温泉など魅力的な施設を周遊



事業概要 (3/5) 【防災環境“周遊”都市・仙台モデル推進事業】

中山間エリア

- ✓ 人口減少に伴い、医療機関やスーパー等の密度低下、公共交通機関の縮小、高齢者免許返納等により、移動が困難な住民が多い
- ✓ 東北有数の温泉街で観光名所である中山間エリアは、観光資源があるものの移動がしにくい
- ✓ 試行運行中のデマンド交通は電話予約のみで煩雑・不便である
- ▶ **新しいオンライン診療の活用で高齢化・医師不足の解消モデルを実現**
- ▶ **デマンド交通の利便性向上により住民の移動をスムーズに**



市内中心部エリア

- ✓ 仙台七夕まつりやジャズフェスティバルなど、季節毎に市民主体の様々なイベントが開催されているが、情報が一元化されていない
- ✓ 情報があふれており、自分の興味関心のあるイベントやお店に辿り着くことができない
- ✓ 帰宅困難者向けの災害時帰宅支援ステーションについて、災害時には市民に分かりやすく伝えたい
- ▶ **人々の“行きたい”を創出しながら、安全・安心を前提に、スムーズな周遊を実現**

市内中心部エリア



沿岸部エリア

- ✓ 東日本大震災後の集団移転跡地の活用として、温泉複合施設や体験型観光農園等魅力的なスポットが誕生、エリア内を周遊できる新たな移動手段が欲しい
- ✓ 津波避難施設の整備や、津波避難広報ドローンの実装など災害リスクに対応
- ▶ **災害リスクには備え、安心して楽しめる周遊を実現**



1 市民/来街者向けポータル構築・災害時の情報発信 2 デジタルマップの活用 3 プッシュ通知による情報発信 4 デマンド交通の利便性向上 5 オンライン診療の活用 6 シェアサイクルの活用 7 デジタルデバイドの解消

- ✓ 市民や来街者が自分に必要な情報やサービスにアクセスできる共通インターフェースを整備
- ✓ ポータルを通じ、災害時には避難情報等を迅速に発信
- ✓ 市の保有するデータや本事業のサービスのデータ等をオープンデータ化
- ✓ 日常/非日常でフェーズフリーに活用

- ✓ 公共交通機関の情報やイベント・学びの場に関する情報を、デジタルマップ上で一元的に表示
- ✓ マップ上で、一日乗車券やおでかけスポットに関するチケットの購入なども可能とすることで市民・来街者の外出意欲を創出

- ✓ 市民や来街者に向けて商店街アプリからイベント情報やお得な情報等のプッシュ通知を送り、エリア内の周遊を促進
- ✓ エリア内の人流を測定し混雑状況を可視化することで、スムーズな移動を支援

- ✓ 地域交通へオンライン予約受付システムを導入し運行エリア等をデジタルマップ上に表示
- ✓ デマンド交通の利便性向上により中山間エリアにおける移動を促す

- ✓ 看護師が診療補助するオンライン診療医療車を郊外エリアに派遣し、新たなオンライン診療の活用を実現
- ✓ オンライン診療を活用した救急医療の最適化も行い、日常からオンライン診療を活用し有事にも備える

- ✓ 電動シェアサイクルを公共交通空白地帯の東部沿岸地域にて展開
- ✓ エリア内の周遊を促進するとともに、エリア内の移動実態データを取得し、新サービスの創出につなげる

- ✓ 各デジタルサービスの利便性を幅広い方が享受できるよう、デジタルデバイス対策を実施
- ✓ 民間事業者と連携したスマホ教室の開催
- ✓ 老人福祉センターにeスポーツができる機器を設置しデジタルに慣れ親しんでもらうとともに、健康増進にもつなげる

事業概要 (4/5) 【防災環境“周遊”都市・仙台モデル推進事業】 ※公表資料として作成すること。

各サービスにおけるステークホルダーと活用データ

| 1 市民／来街者向けポータル の構築・災害時の情報発信 | 2 デジタルマップ の活用 | 3 プッシュ通知 による情報発信 | 4 デマンド交通 の利便性向上 | 5 オンライン診療 の活用 | 6 シェアサイクル の活用 | 7 デジタルデバイド の解消 |
|---|---|--|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■利用者本人： 属性情報（R6年度～） ■仙台市： 統計情報、各サービス取得データ 避難情報、気象情報、地震情報 指定避難所情報 | <ul style="list-style-type: none"> ■利用者本人： 位置情報、属性情報 ■地元店舗等： イベント情報、観光情報 ■交通事業者： ルート情報、時刻表情報等 ■仙台市： イベント情報、観光情報 災害時帰宅支援ステーション | <ul style="list-style-type: none"> ■利用者本人： 属性情報 ■地元店舗等： お得情報、イベント情報 人流情報 ■仙台市： イベント情報 | <ul style="list-style-type: none"> ■利用者本人： 予約情報、属性情報 ■地元店舗等： 施設情報 ■運行事業者等： 運行エリア情報 交通情報 | <ul style="list-style-type: none"> ■利用者本人： 予約情報、属性情報 ■医療機関： 診療情報 休日・夜間診療所情報 オンライン救急利用件数情報 ■医療カー： 予約情報、稼働情報 | <ul style="list-style-type: none"> ■利用者本人： 利用情報、移動情報 ■地元店舗等： 施設情報、イベント情報 ■気象庁： 気象情報 | <ul style="list-style-type: none"> ■利用者本人： 属性情報 身体的健康情報 心理的健康情報 アンケート情報 ■スタッフ： 属性情報 |

- 各サービスの実現に必要なデータの連携、更に生み出されたデータの活用を無理・無駄なく実現するため、データ連携基盤を通し1つのインプットで複数サービスの高度化を図る。
- データ連携基盤を通じてデータが流通することで、地域のステークホルダーにも気づきを与え、よりよいサービスを楽しむことができる社会を実現。

データ連携により生み出される付加価値の例

| 防災・減災情報の効率的な発信 | 帰宅困難者対策の精度の向上 | シェアサイクルの配車の適正化 | オンライン診療とデマンド交通の 予約連携 |
|---|---|---|---|
| <p>1 ポータル</p> <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> | <p>1 ポータル</p> <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> | <p>1 ポータル</p> <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> | <p>1 ポータル</p> <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> |
| <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> | <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> | <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> | <p>2 デジタルマップ</p> <p>3 デジタルマップ</p> <p>4 デマンド交通</p> <p>5 オンライン診療</p> <p>6 シェアサイクル</p> |
| <p>※避難所/津波避難施設/災害時帰宅支援ステーション etc</p> | <p>※帰宅困難者対策</p> | <p>※各事業で得られたイベント情報や人流情報をシェアサイクルシステムと連携し、配車を最適化 (R6～)</p> | <p>※オンライン診療の予約情報とデマンド交通の予約受付システムを連携し、予約をシームレス化 (R6～)</p> |
| <p>個別の状況ごとに避難先情報が提供され、スムーズな避難が可能</p> | <p>イベント時に災害が発生した場合に想定される帰宅困難者数の把握により、精度の高い対策を実現</p> | <p>混雑が予測されるポートへの配車が最適化され、適切にサービスが利用可能</p> | <p>医療カーの受診予約とデマンド交通の乗車予約が円滑に完了</p> |

今後の展開



サービス概要（1/7）

■ サービス内容

| | | | |
|-------|-------------------------|-----|--|
| サービス名 | 市民／来街者向けポータル構築・災害時の情報発信 | 事業費 | |
| ターゲット | 市民、来街者、事業者 | | |
| 展開エリア | 仙台市 | | |

サービス内容（事業分野：①行政サービス、⑨防災・防犯）

現状の課題

- 市民や来街者が自分に必要な情報やサービスにアクセスしづらい。
- 市内のさまざまなデータについて、適切なタイミング・活用しやすい手法でわかりやすく確認できる環境がない。

対応の方針

- 市民や来街者が防災、観光などの情報にアクセスしやすくするとともに、複数のスマートシティ関連サービスを利用できるよう、共通インターフェースを整備。（ポータル）
- 統計データや各サービス取得データ等を可視化。（オープンデータダッシュボード）
- ポータルを通じ、災害時には避難情報等を迅速に発信。

活用するデータ

- 属性情報（R6年度～）
- 仙台市における統計情報
- 各サービス取得データ
- 避難情報
- 気象情報
- 地震情報
- 指定避難所情報（施設情報・利用状況・人流・イベントなど）

価値創出の方向性

- ポータルを通じて、市民や来街者が、日常的に安全・安心や賑わいに関する情報等に触れ、ライフスタイルに合わせてサービスを利用できるようになる。
- オープンデータダッシュボードによって、市民や事業者は、元データを参照しに行く手間が省け、より市内の状況について把握しやすくなる。

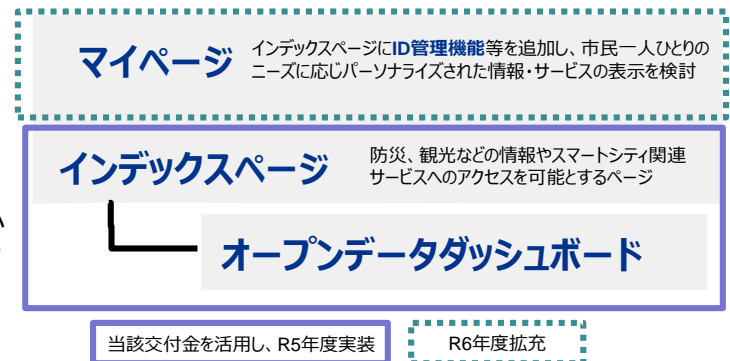
事業イメージ

- インターフェースイメージ図



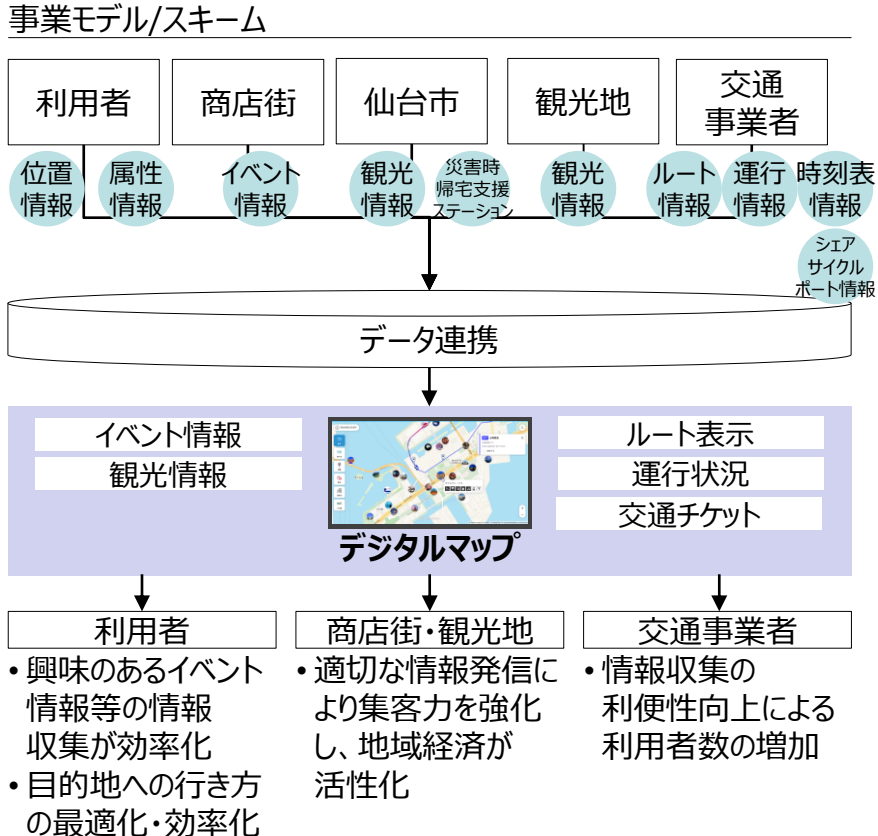
避難情報
避難情報ウェブサイト
危機管理局Twitter

- 実装範囲



サービス概要 (2/7)

■ サービス内容

| | | | |
|-------------------------|--|--|--|
| サービス名 | デジタルマップの活用 | 事業費 | |
| ターゲット | 市民、来街者 | | |
| 展開エリア | 仙台市、近隣市町村（山形県山形市等） | | |
| サービス内容（事業分野：⑥交通・物流、⑪観光） | | | |
| 現状の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 市内のイベント・観光情報の情報発信が不足しており、認知度が低い。 ● 地下鉄・路線バス等の乗り場・時刻表などの情報が事業者ごとに分散しているなど、目的地へのアクセス検索が複雑化している。 | 事業モデル/スキーム  | |
| 対応の方針 | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルマップを構築し、イベント・観光情報、シェアサイクルポート情報、公共交通機関における時刻表等の情報を集約し、利用者の情報収集における負担を軽減。 ● 「仙台MaaS」における交通機関等のデジタルチケットの購入を円滑にし、利用者の利便性を向上。 ● 災害時には、帰宅支援を促す情報を発信し、フェーズフリーに活用。 | | |
| 活用するデータ | <ul style="list-style-type: none"> ● 位置情報 ● 属性情報 ● イベント情報 ● 観光情報 ● 災害時帰宅支援ステーション ● ルート情報 ● 時刻表情報 ● 運行情報 ● シェアサイクルポート情報 | | |
| 価値創出の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「行きたい」気持ちを「行ける」に変え、公共交通の利用促進と地域の賑わい活性化を実現させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者 <ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるイベント情報等の情報収集が効率化 ・目的地への行き方の最適化・効率化 ● 商店街・観光地 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な情報発信により集客力を強化し、地域経済が活性化 ● 交通事業者 <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の利便性向上による利用者数の増加 | |

サービス概要 (3/7)

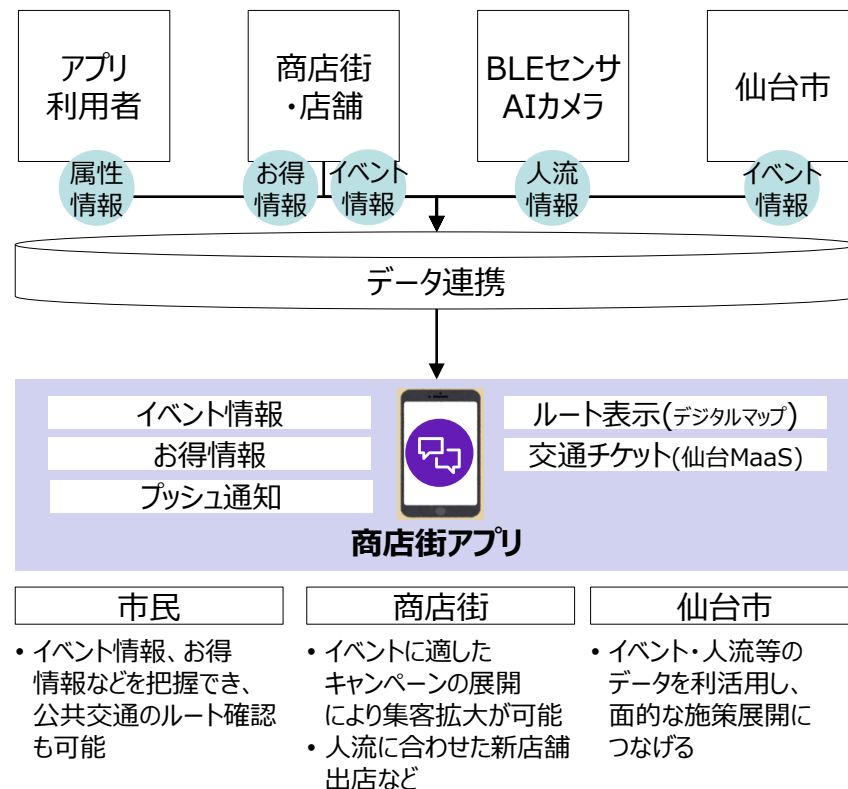
■ サービス内容

| | | | |
|-------|-----------------|-----|--|
| サービス名 | プッシュ通知による情報発信 | 事業費 | |
| ターゲット | 市民、来街者、事業者 | | |
| 展開エリア | 仙台市青葉区（市内中心市街地） | | |

サービス内容（事業分野：⑩産業振興、⑪観光）

| | |
|----------|---|
| 現状の課題 | <ul style="list-style-type: none"> 市民・来街者にとって、商業施設が集積する仙台駅前や、数多くイベントが開催されている勾当台公園市民広場に足を運ぶ機会が多いが、中心市街地の他のエリアにどのようなコンテンツがあるか分からず、直行直帰してしまうことにより、機会損失が生じている。 |
| 対応の方針 | <ul style="list-style-type: none"> 商店街アプリからのプッシュ通知により、イベント情報や商店街等のお得な情報がタイムリーに手元に届くようにする。 人流情報などの利活用により、特に地元事業者の魅力的なコンテンツ創出に寄与する。 |
| 活用するデータ | <ul style="list-style-type: none"> 属性情報 お得情報 イベント情報 人流情報（BLEセンサ・AIカメラ） |
| 価値創出の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> イベントによる通行量の変化を検証し、面的な施策展開につなげる。 人流情報・イベント情報を避難施設情報等と連携させることで、大規模イベント時等の帰宅困難者対策の精度を向上させ、有事の際の安全・安心についても担保する。 |

事業モデル/スキーム



サービス概要 (4/7)

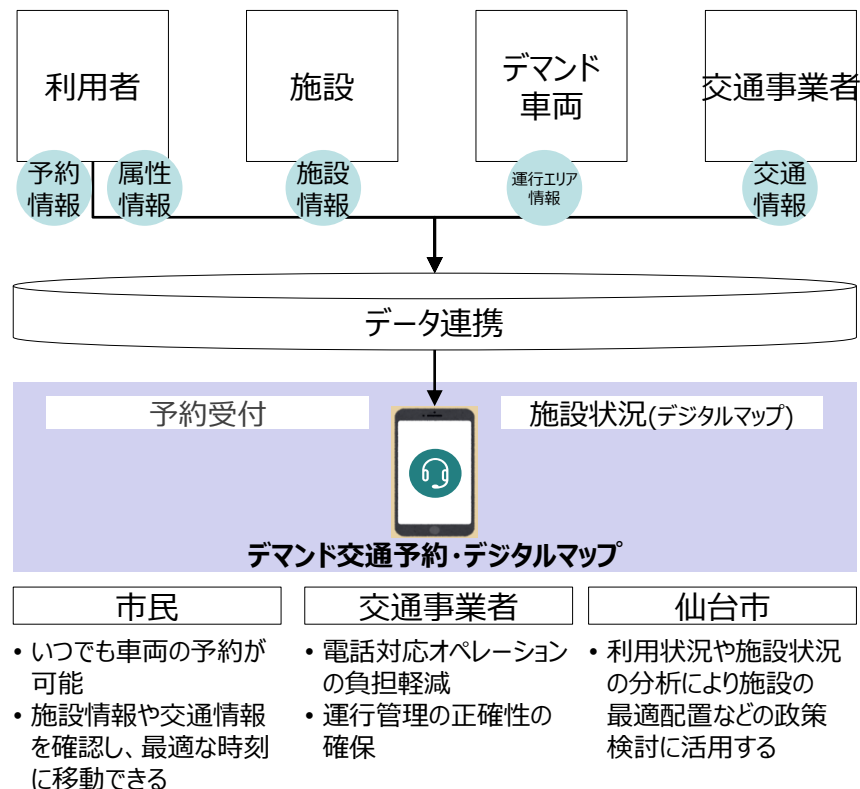
■ サービス内容

| | | | |
|-------|------------------|-----|--|
| サービス名 | デマンド交通の利便性向上 | 事業費 | |
| ターゲット | 市民 | | |
| 展開エリア | 仙台市太白区秋保町（中山間地域） | | |

サービス内容（事業分野：⑥交通・物流）

| | |
|----------|--|
| 現状の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ● デマンド交通「ぐるりんあきう」を運行中。多くの方々に利用されているが、予約は電話受付のみであるため、オペレーションに負担がかかり、予約管理ミスが発生している。 ● 目的地の場所等の施設情報と運行エリア情報が一元的に確認できず、デマンド交通を利用できるかどうかが分かりにくい。 |
| 対応の方針 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域交通のオンライン予約受付システムを導入することにより、ヒューマンエラーを減らし、市民が円滑にサービスを利用できるようにする。 ● デマンド交通の運行エリア情報と目的地の施設情報をデジタルマップに反映し、利用者の利便性を向上させる。 |
| 活用するデータ | <ul style="list-style-type: none"> ● 予約情報 ● 属性情報 ● 施設情報 ● 車両の運行エリア情報 ● 交通情報 |
| 価値創出の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ● データ連携により交通事業者、利用者双方がメリットを享受できる。 ● 利用状況から分析した行動・動態をもとに、施設配置（EBPM）を検証することで、まちづくりの高度化と回遊性の向上を図る。 |

事業モデル/スキーム



サービス概要 (5/7)

■ サービス内容

| | | | |
|-------|------------|-----|--|
| サービス名 | オンライン診療の活用 | 事業費 | |
| ターゲット | 市民 | | |
| 展開エリア | 仙台市 | | |

サービス内容 (事業分野：⑤医療・福祉・子育て)

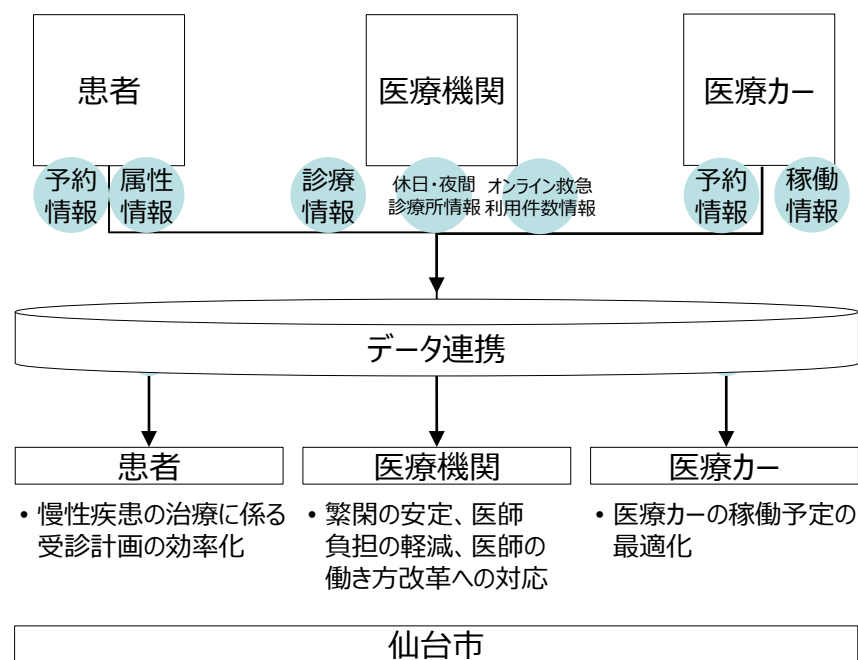
| | |
|-------|--|
| 現状の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 郊外の居住者や高齢者等、外出が困難な患者が医療機関を受診するのが困難。 ● オンライン診療に不慣れな患者も存在。 ● 医師の往診リソースが不足するほか、救急医療が逼迫。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 対応の方針 | <ul style="list-style-type: none"> ● 医療機器を搭載した医療カーが患者のもとに出向き、同乗する看護師が診療補助するオンライン診療（DtoPwithN型）を実施する。 ● 救急医療において、緊急性が低く、救急搬送の必要性がない患者についてオンライン診療を活用。 |
|-------|---|

| | |
|---------|---|
| 活用するデータ | <ul style="list-style-type: none"> ● 予約情報 ● 属性情報 ● 診療情報 ● 休日・夜間診療所情報 ● オンライン救急利用件数情報 ● 医療カー予約情報 ● 医療カー稼働情報 |
|---------|---|

| | |
|----------|---|
| 価値創出の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ● 病院に「行かなくても良い」ケースを増やし、患者の負担を軽減する。 ● 救急搬送の適正化を実現し、患者と医師双方の負担を軽減する。 ● 最終的には、地域住民の健康寿命延伸による医療費負担の減少につなげる。 |
|----------|---|

事業モデル/スキーム



- | | | |
|--|--|---|
| 患者 | 医療機関 | 医療カー |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 慢性疾患の治療に係る受診計画の効率化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 繁忙の安定、医師負担の軽減、医師の働き方改革への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ● 医療カーの稼働予定の最適化 |

仙台市

- 医療の効率化
- 健康寿命延伸による医療費負担減

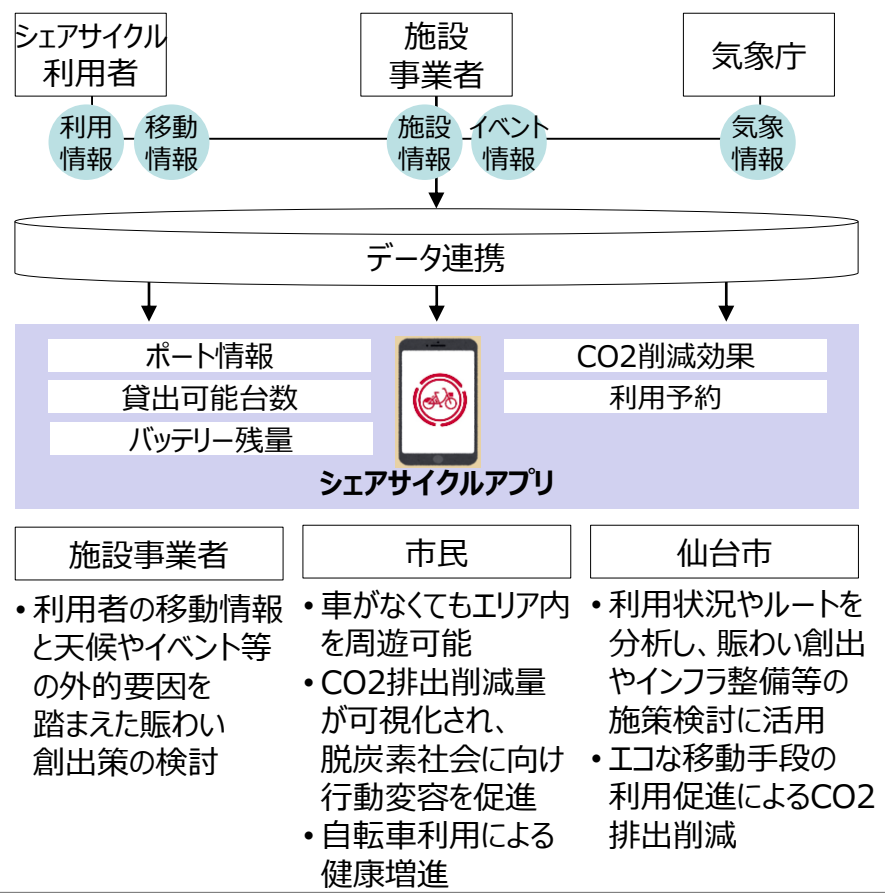
■ サービス内容

| | | | |
|-------|----------------|-----|--|
| サービス名 | シェアサイクルの活用 | 事業費 | |
| ターゲット | 市民、来街者 | | |
| 展開エリア | 仙台市若林区（東部沿岸地域） | | |

サービス内容（事業分野：⑥交通・物流、⑪観光）

| | | | | | | | |
|----------|---|--------|--------|--------|----------|--|--------|
| 現状の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災により甚大な被害を受けた仙台市東部沿岸地域では、移転跡地を活用した賑わいづくりが進んでいる。 ● 観光コンテンツは存在しているものの、車以外でのアクセス方法が不足。 ● 移動に関する情報が取得できておらず、今後の活性化施策を検討する際のエビデンスが不足。 | | | | | | |
| 対応の方針 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地下鉄からの二次交通として地下鉄終点駅にシェアサイクルのポートを設置し、利便性を向上させる。 ● 自転車での移動そのものをアクティビティとして楽しんでもらうためのイベントや情報発信を実施。 ● シェアサイクルの利用情報とエリア内のイベント情報、気象情報等を連携し、賑わい創出施策の検討に活用。 ● シェアサイクルアプリでCO2の排出削減量を可視化。 | | | | | | |
| 活用するデータ | <table border="0"> <tr> <td>● 利用情報</td> <td>● 施設情報</td> </tr> <tr> <td>● 移動情報</td> <td>● イベント情報</td> </tr> <tr> <td></td> <td>● 気象情報</td> </tr> </table> | ● 利用情報 | ● 施設情報 | ● 移動情報 | ● イベント情報 | | ● 気象情報 |
| ● 利用情報 | ● 施設情報 | | | | | | |
| ● 移動情報 | ● イベント情報 | | | | | | |
| | ● 気象情報 | | | | | | |
| 価値創出の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ● 自転車による回遊・移動の促進を通じた消費の促進と、地域経済の活性化を図る。 ● エコな移動を促進することによるCO2排出削減。 | | | | | | |

事業モデル/スキーム



サービス概要 (7/7)

■ サービス内容

| | | | |
|-------|-------------|-----|--|
| サービス名 | デジタルデバイドの解消 | 事業費 | |
| ターゲット | 市民 | | |
| 展開エリア | 仙台市 | | |

サービス内容（事業分野：⑤医療・福祉・子育て）

| | |
|--|---|
| <p>現状の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に実施した本市アンケートによれば、高齢者の約4割がデジタル端末を活用できていない。各サービスを幅広い方が利用できるよう、デジタルデバイドの解消が急務。 本市の1人あたり介護給付費は年々増加傾向であり、健康増進や孤立防止の取組が必要。 | <p>事業モデル/スキーム</p> <pre> graph TD A[eスポーツ教室利用者] -- "属性情報, 身体的健康情報, 心理的健康情報, デジタルや多世代交流に関するアンケート情報" --> B(データ連携) C[学生 eスポーツ教室スタッフ] -- "属性情報" --> B B --> D[ゲーム会社等] B --> E[地域包括支援センター] B --> F[大学] B --> G[アプリ開発企業等] </pre> |
| <p>対応の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間事業者と連携してスマートフォン教室を開催。（交付金対象外） 老人福祉センターにeスポーツや最新のデジタル機器に触れられる環境を整備するとともに、eスポーツ教室や地域の高齢者も参加できるイベントを定期的で開催し、高齢者同士、さらにはボランティア学生も含めた多世代交流の場を創出。 | <p>ゲーム会社等</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の属性情報・健康情報の分析を踏まえ、高齢者向けゲーム開発の検討等の事業展開 |
| <p>活用するデータ</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性情報（性別・年齢・介護情報等） 身体的健康情報（握力測定・歩行速度等） 心理的健康情報（毎日の生活の充実感等） デジタルや多世代交流に関するアンケート情報 | <p>地域包括支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の属性情報や健康情報を踏まえ、独居高齢者の外出のきっかけづくり等、地域でのつながりづくりでの事業展開 |
| <p>価値創出の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル機器の利点を体感する機会を増やすことを通じたデジタルデバイドの解消。 eスポーツによる認知機能等の向上を通じた健康寿命延伸。 独居の者をはじめとする高齢者のコミュニケーション増加を図ることによる、生きがい創出や孤立化の抑制。 | <p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> eスポーツが高齢者に与える身体的・心理的影響について分析 今後の高齢者の健康づくりに向けた研究 |
| | <p>アプリ開発企業等</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者でも使用しやすいアプリやインターフェースの開発等 高齢者ニーズのある健康情報を把握し、プッシュ型配信による情報提供等の展開 |